

【酒類量販店に飲酒運転で来店した客を通報し検挙につながった事例】

私は、ある酒類量販店の店長をしております。

当店には、以前から酒の臭いをさせながら来るお客さんがおり、店員からも、飲酒運転ではないかと聞かされ、注意しておりました。

ある日の午後、店内で商品整理をしていると、店員から、先程のお客さんが車で来店しているとの報告を受けました。

確認に行きますと、確かにいつものお客さんであり、近づいてみると顔が赤く、酒の臭いがすごくしましたので、「飲酒運転をしてきたに違いない」と確信しました。

私は、

このお客さんは、常習犯に違いない。ここで取調べを受けないと本人のためにならないし、店としても迷惑だ。

という思いから、直ぐに警察に通報し、応対した警察官に男性の特徴や車のナンバーを伝えました。

そのときは、ドキドキしていたと思いますが、警察官から必要なことをその都度尋ねられましたので、きちんと伝えることができたと思います。

通報を終えて店の駐車場に出ると、お客さんの車が身障者用の駐車枠に斜めに雑然と止められており、改めて、飲酒運転で来店していることを実感させられました。

警察官の到着を今か今かと待っていましたところ、しばらくしてパトカーがやってきましたので、手を挙げて駐車場に誘導し、降りてきた警察官が男性の呼気検査などをした後、パトカーに乗せていきました。

今回、正直言って、通報することに一瞬の迷いはありました。しかし、店員の不安や店への影響、それに、お客さんに事故でも起こされたら困ると考えたとき、通報する勇気が出てきました。

飲酒運転が本当に身近な問題であることを実感しました。今回のように、もし飲酒運転を見かけた際は通報すること、自信がなければ誰かに伝えるべきだと思います。

通報を通じて、飲酒運転が1件でも減り、ゼロを目指すことが大切だと思います。